

大型海藻群落の生産力とその変動を把握する

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-11-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村岡, 大祐 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012409

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



大型海藻群落の生産力とその変動を把握する

海区水産業研究部

研究の背景・目的

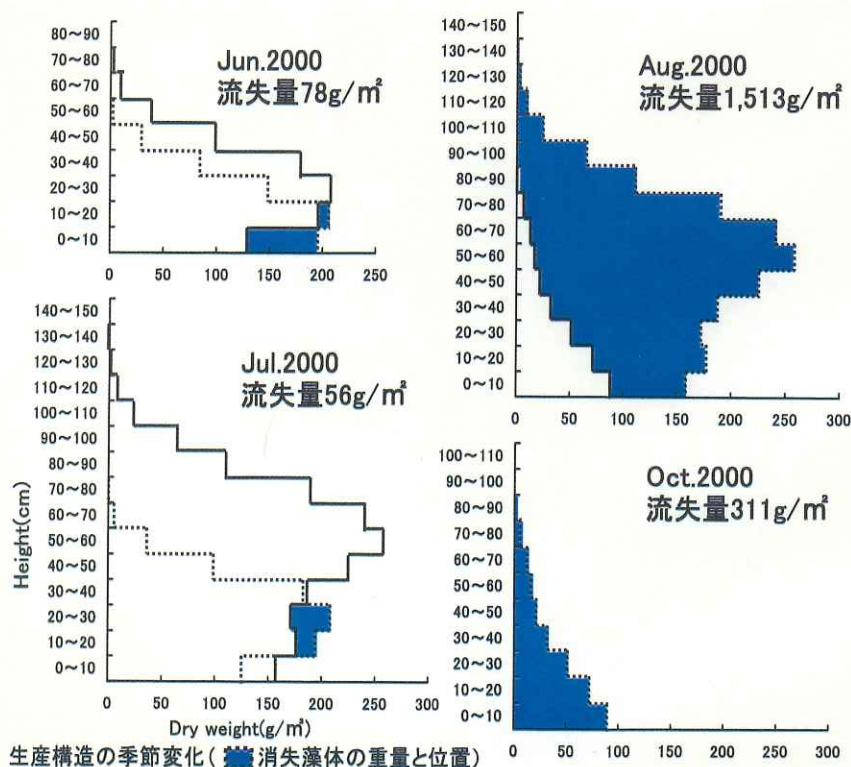
1. 大型海藻群落（藻場）は魚介類の産卵・成育の場とともに、餌料供給源、炭素や栄養塩吸収による環境保全等、漁業生産に重要な役割
2. 近年、褐藻群落を中心とした藻場が多くの海域で消失し、海藻群落の変動とその生産力の把握が緊急の課題

研究成果

1. 褐藻エゾノネジモク群落の年間純生産量は $2.0\text{kg}/\text{m}^2$ （乾燥重量）と推定。炭素量換算で $737\text{gC}/\text{m}^2$ となり、マツ植林地と同等の高い炭素吸収能
2. 牡鹿半島実験区のアラメ群落は、1999年から2年間で11m岸側に退行。キタムラサキウニの摂食による幼体の生残阻害に起因と推察

波及効果

1. 日本沿岸域の藻場による炭素吸収量の推定
2. 藻場の維持における藻食動物等管理の重要性



エゾノネジモク群落で年間を通じ坪刈り調査を行い、高さ別に藻体量の変化を把握して、流失した藻体の合計を年間純生産量と推定